

MBTI 花束 花束に思いを

花き装飾コース 藤田 実幸義

(指導教員：林 誠)

1. はじめに

アカデミーでは、インターンシップを通して現場のスピード感や、好きという感情だけでは続けられない仕事の厳しさを学んだ。特に花束制作の現場では、お客さんの具体的な指定ではなくイメージでの注文を受ける機会が多く、フローリスト側の表現力や提案力の重要性を強く感じた。そのため卒業制作では、抽象的なイメージによる注文に対しても、より明確な提案を行える力を身に着けるには、どのような練習方法が有効であるかを考えた。考える中でふと思い出したのは、一年次に友達と興味本位で行ったMBTI診断である。

MBTI診断とは、人の性格傾向を16タイプ(冒険家、巨匠、擁護者、エンターテイナー、領事、主人公、広報運動家、討論者、論理学者、提唱者、建築家、指揮官、管理者、幹部、仲介者、起業家)に分類する指標であり、優劣を判断するものではなく、思考や行動の傾向、価値観の違いを理解するための物である。実際に診断を行った際、自身の性格特性が的確に表現されていると感じる場面が多く、その信憑性の高さに驚いた記憶が強く残っている。以上の経験を踏まえ、本研究ではMBTI診断を参考とした花束制作を題材とし、抽象的なイメージによる注文に対しても、より明確な提案を行える力を身に着けることを目的とする。

2. 作品紹介

冒険家



主人公



擁護者



3. まとめ

抽象的なイメージや感情をどのように視覚化し、造形として成立させるかという課題に対し、MBTI診断を一つの指標として花束制作に応用することにした。

花束制作では性格特性の分析を行い、花材選定、色彩構成、花材配置、高低差や視線の流れといった造形要素へと変換した。その過程を通して、花材や色彩が持つ意味を理解し、それらを意図的に活用することの重要性を学んだ。また、花材の扱い方や配置方法、どのような意味を持たせて構成し、高低差をつけるのかといった点について、様々な視点から思考することが、説得力のある花束表現に繋がるのだと実感した。

本卒業制作の目的であった、抽象的なイメージによる注文に対しても、より明確な提案を行える力を身に付けるという点について、本研究を通して一定の成果が得られたと考える。イメージを具現化する過程での思考や分析力、そして表現力の向上を実感した。抽象的な注文に対してより具体的な提案を行う力は、制作技術だけでなく、制作全体の構成やコンセプトを論理的に組み立てる能力につながるものであり、卒業制作の目的を達成する上で重要な成果であったと考える。